

## 常務理事就任にあたって



公益財団法人 ダイア高齢社会研究財団 常務理事 佐藤 一三

昨年12月、樋渡泰典前常務理事の後任理事として選任され、本年1月より常務理事を務めることになりました。微力ではありますが、ダイア財団の発展に精一杯尽くす所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

樋渡前常務理事は、2014年11月の就任以来5年間、当財団のテーマ「しあわせで活力ある長寿社会」の構築に尽力されるとともに、新たに受託研究の道を開くなどの事業の多様化、保有資産の有効活用による財政基盤の安定化等に取り組み、財団運営の発展に尽くされました。今後ともご指導ご助言をお願いしたいと存じます。

さて、「人生100年時代」を迎えている今、高齢化が引き起こす社会問題には深刻なものがああります。しかし、一方で昨今は、一つひとつの問題を解決するための社会や企業の種々の取り組みが着実に加速しており、また、テクノロジーの進化もめざましく、これまでの様々な努力が結実し、問題の改善や解決に向け確実に成果が上がってきた分野も認識できます。このような中、未だ手付かずであったり、まだまだ改善の余地がある分野における当財団の取り組みには、これまでの問題の

本質を的確に捉えた研究・普及活動に加え、行政、学会、産業界、民間諸団体と連携するネットワーク機能の更なる拡充が重要になってくると考えます。また、種々の改善を進めるに当たっては、社会のみならず、一人ひとりの生き方にも大きな変化が求められるのではないのでしょうか。健やかに、いきいきと、より良い毎日を過ごし、心豊かな最高の人生を全うするために、これまでの「自立」や「世代を超えた多くの人の支え合い」ということに加え、「困難を抱えながらの社会への貢献」といった観点からも新しい未来を考えていく必要があると思います。

当財団は設立以来、民間研究機関として高齢社会における健康、経済、医療・介護、地域社会等の各分野で様々な成果を広く社会に発信し、一般への普及にも努めて参りました。歳を重ねることを前向きに捉えられる社会の実現に一步一步近づいていることが実感でき、すべての世代が参画する、「しあわせで活力ある長寿社会」の創造に向けて、今後とも努力をいたす所存です。皆さまにおかれましては、引き続き倍旧のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。